



# 金融財政

2006年(平成18年) 7月10日 (月) 第9760号 (購読料金 月額税込み5,565円)

## スミスの道徳論

お茶の水女子大学教授 篠塚英子



民放テレビの昼ドラマ「我輩は主婦である」が、女優斉藤由貴、売れっ子脚本家クドカンこと宮藤

官九郎で、ちよつとした話題になっている。夏目漱石が主婦に乗り移った。百数十年前の明治の作家の声は、エスプリが利き、おかしい。

それなら「我輩はスミスである!」という脚本が書かれたら、さぞかし混乱している現在の日本経済論議にも、明快な交通整理になりはしまいか。

スミスとはもちろんアダム・スミス(1723~90)のこと。そんなことが浮かぶのも、ほかでもない、テレビが映し出した強烈なあの残像が脳裏から離れないからである。

村上ファンド元代表の村上世彰氏。童顔、どんぐり眼、少年顔の無邪気さで、喋りまくっていた。「ボクを皆さんが嫌いなのは、ボクがたくさんの金儲けをしたからでしょう。でも、お聞きしたい、金儲けがそんなに悪いことですか」

230年前にスミスは「国富論」(1776)を書いて、古典派経済学の

元祖となった。当時まだ肩書は経済学者ではない。彼の学界デビューは、国富論に先立つ17年前の「道徳情操論」(初版1759年)で肩書は道徳哲学教授。当時、燎原の火となった産業革命は、イギリス社会全体を席卷し、人々の行動も激変した。

新たに登場した「市場」に参加する人々の経済行為を含めて、尊敬されるべき人々はどのような価値基準を持つていると成功するのか、その行動規範を分析したものであった。

前掲の正式タイトルは「道徳情操論、あるいは人々がまずもつてその隣人の行為と性格に関して、次いで自分自身の行為と性格に関して自然に判断を下す場合における諸原理の分析を目的とする一考察試」という長いものである。今、スミスが誰かに乗り移ったなら、きつとこう言うのではないか。

「まず、道徳情操論を読みなさい。市場競争の前に。富める者が尊敬されるには、成り上がり者ではだめ。ゆつくり時間をかけて富が形成されること、恨望ではなく羨望も競争社会には必要である」。みんな250年前に書いてあるのだが。

## CONTENTS

- 解説 成長シナリオ「修正」、過去の「危機」とは異質(田島弘一) 1
- 世界的な「株安連鎖」を振り返って…………… 2
- BANCO 地方交付税の法定率(富田俊基) 3
- 照一隅 労働力不足への対応(泰久) …… 5
- インタビュー 邦銀メガバンクに聞く「攻め」の欧米戦略(3) 6
- 溝口潤・三井住友銀行執行役員…………… 8
- インサイド 「マザーズ」分離論の行方…………… 9
- 政経深層 底なしの「違反事件」続出(岡 憲策) ……11
- 解説 内需主導で景気拡大、ゼロ金利「解除」焦点に(公文 敬) 12
- 7月の景気動向と金融情勢……………12
- あと・らんだむ (神崎倫一) ……13
- マーケットリーダー (牧野義司) ……17
- 資料 中小企業月次景況観測〈6月〉……………18
- 資料 2006年3月期銀行決算⑥……………19
- 北風・南風 大垣共立銀行(岐阜)……………20